

大正五年四月六日第三種郵便物認可 昭和二十一年八月十五日印刷納本（毎月一回一日發行）

21. 9. 2.

哲 學 研 究

第 三 十 卷 第 四 册

第 三 百 四 十 九 號

昭 和 二 十 一 年 八 月 二 十 日 發 行

思考の心理學的意義 文學博士 矢田部達郎

アリストテレスに於ける實踐の構造 文學士 安藤孝行

——靈魂諸部分の聯關——

知の第二面（承前）..... 文學士 山田次郎

——個性的自覺としての美——

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其ノ普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一 毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一 毎年公開講演會ヲ開ク
 - 一 毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會ノ事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一 委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得、學校、圖書館、教育會、其ノ他團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年三十圓、前後二期ニ分チテ前納スルコトヲ得
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配布ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	白井二尙
文學士	上野照夫
文學士	澤瀉久敬
文學士	重澤俊郎
文學博士	島芳夫
文學士	岡原太郎
文學博士	西谷啓治
文學博士	久松眞一
文學博士	本田義英
文學士	松村克己
文學博士	矢田部達郎
文學博士	山内得立
文學士	井島勉

殺によるかの「實用」的擾亂への努力的な反抗によるか——自由を得、客觀的觀照即感受への便宜を得る限りに於いて、そこに或る美的見地の可能が開け、——要するにももの性質的統一に關する意識の「湛へ」（「知線」の「直角」態）としての個性知的凝視の成り立つ所、そこに美があるといふ我々の上來の考へ方は茲にも依然その妥當性を失ふことがないのである。　　・　　（二、丁）

前 號 目 次

印度に於ける業論 について	……	文學士	松尾義海
美的教育論としてのシ ラーの人間形成の理念	……	文學士	小田 武
知の第二面 ——個性的自覚としての美——	……	文學士	山田次郎
寸心先生日記抄（二）			

會 告

- 一 本會へ入會希望者ハ京都市田中西浦町弘文堂書房
内京都哲學會宛ニ規定ノ會費 前表紙裏ニアリニ
送料ヲ加算シ御納付ノ上御申込被下度候
- 一 會員ノ轉居入退會(等編輯事務以外ノ一切)ノ事務
ハ弘文堂書房内京都哲學會係へ御通知被下度候
- 一 會費ハ「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
宛ニ御拂込被下度候
- 一 前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」ノ印章捺捺致ス
バキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一 本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄附雜誌
等ハ凡テ本會宛ニ御發送被下度候

京都帝國大學 京都哲學會
文學部内

註 文 規 定

- 一 會員にあらざる購讀者の御注文及び廣告に關する
件は「弘文堂書房」へ御申込下され度候
- 一 本誌の御注文はすべて代金郵便共前金にて御送り
下され度候
- 一 特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券十錢
御送付下され度候

昭和二十一年八月十五日印刷納本
昭和二十一年八月二十日發行

編輯人 京都哲學會

京都帝國大學文學部内

右代表者

澤 瀉 久 敬

發行兼印刷人 八 坂 淺 太 郎

東京都神田區駿河臺四ノ四

印刷所(京都芝) 弘 文 堂 印 刷 部

京都市田中西浦町四〇

配給元 日本出版配給株式會社

東京都神田區淡路町二ノ九

發行所 弘 文 堂 書 房

東京都神田區駿河臺四ノ四

價 定		冊 數		定 價		郵 稅	
一冊	冊	金二圓半錢	冊	金十五錢	一冊	冊	金九錢
六冊(前金)	冊	金十五圓	三冊(前金)	金三十圓	一冊	冊	金一圓八錢